

栄養度判定要領について

- (1) 栄養度は9区分とした。(2) 判定部位は、骨格を触診できるき甲、背骨、肋骨、腰角、臀部、尾根部の6部位とし、その部位の脂肪の蓄積状態により判定する。
 (3) 栄養度は6部位の単純平均により求める。(少数第1位を四捨五入)

「栄養度」判定要領

区分	やせている			普通			太っている				
	非常にやせている 1	やせている 2	やややせている 3	やせ気味 4	普通 5	太り気味 6	やや太っている 7	太っている 8	非常に太っている 9		
き甲	視診	脊椎がとがった峰状を呈する 脊椎が1個1個明りように見分けられる		少し肉がついている	丸みを帯び、滑らかである			骨組みの様子は外観的にはわからない			
	触診	手を当てると直接脊椎に触れる		極く少量の脂肪がある	軽く圧することにより突起を区別できる		かなりの圧力で触れないと突起を区別できない	皮下脂肪の蓄積が顕著である 多めの脂肪蓄積 過脂 非常に過脂			
背骨	視診	背骨の先端が鋭角的で突出している 背骨が長く見分けられる	背骨が見分けられる	背骨の先端が丸みを帯びてくる	全体が滑らかに移行している		背が平らに見える	骨組みの様子は外観的にはわからない			
	触診	手を当てると直接背骨に触れる 脂肪なし		極く少量の脂肪がある	軽く圧することにより背骨が識別できる	少し脂肪がある	ある程度の脂肪蓄積がある	やや多めの脂肪がある	相当の圧力なしでは、背骨を識別できない 多めの脂肪蓄積 過脂 非常に過脂		
肋骨	視診	肋骨が長く見分けられる	肋骨が見分けられる		肋骨が1~2本見える	全体が滑らかに移行している		骨組みの様子は外観的にはわからない			
	触診	手を当てると直接肋骨に触れる 脂肪なし		極く少量の脂肪がある	軽く圧することにより肋骨が識別できる	少し脂肪がある	ある程度の脂肪蓄積がある	やや多めの脂肪がある	肋骨は脂肪で覆われている 多めの脂肪蓄積 過脂 非常に過脂		
腰角	視診	腰角端が鋭角的に突出し、わずかな肉しかない			腰角端はやや丸みを帯びる			腰角は丸みを帯び腰角間は平らとなる			
	触診	手を当てると直接腰角に触れる		極く少量の脂肪がある	軽く圧すると脂肪の蓄積が感じられる				圧すると明らかに脂肪の蓄積が認められる 多めの脂肪蓄積 過脂 非常に過脂		
臀部	視診	坐骨が鋭角的に突出し、わずかな肉しかない 臀部は極端にへこんでいる	臀部はややへこんでいる		坐骨はやや丸みを帯びる 臀部は平たく見える	坐骨は丸みを帯びる 脂肪瘤(尾枕)が現れる					
	触診	手を当てると直接坐骨に触れる		極く少量の脂肪がある	軽く圧すると脂肪の蓄積が感じられる				圧すると明らかに脂肪の蓄積が認められる 多めの脂肪蓄積 過脂 非常に過脂		
尾根部	視診	尾根の下はへこみ、骨格は鋭角的である				骨格は丸みを帯びる			丸くなる		
	触診	手を当てると直接骨格に触れる		極く少量の脂肪がある	軽く圧すると脂肪の蓄積が感じられる				圧すると明らかに脂肪の蓄積が認められる 多めの脂肪蓄積 過脂 非常に過脂		
旧区分	1	2	3	3			3+	4	5		
胸垂	参			少し脂肪がある	ある程度の脂肪	充実してくる	ふくらんでくる			考	
下けん部						やや多めの脂肪	かなりの脂肪			過脂	
乳房部						やや多めの脂肪	かなりの脂肪			過脂	